

# 知事記者会見の概要

日 時：令和5年4月3日(月) 11:30～11:50

場 所：502会議室

出席記者：8名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 令和5年度当初にあたって

### フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：毎日・産経・YBC >

## ☆発表事項

### 知事

皆さん、おはようございます。

本県の今年の春は、平年より大分早く到来したというふうに感じております。3月31日には、山形気象台で桜の開花が宣言されました。3月内に開花の宣言が出されたというのは初めてだそうでありまして、平年より13日も早かったそうであります。このところ、毎日のように晴天が続いております。月山は神々しいまで美しい姿を現してくれておりますし、県内にはたくさんの山々がございますので、県民の皆様も早春の美しい山々をご覧になって、心が洗われるような思いをされているのではないかとこのように思っております。雪割草やマンサク、コブシや梅、つばき、水仙、チューリップなど、県内はまさに百花繚乱の時期を迎えているところであります。

このように自然界がいきいきと活動を始めている今日この頃であります。いよいよ令和5年度がスタートいたしました。この度の新年度の幕開けは、いつもと違って、歴史的な大転換を目の前に控えております。

新型コロナウイルス感染症が本県でも確認され、県民生活や事業活動に深刻な影響を及ぼし始めてから3年以上が経過しましたが、来月の5月8日には、ようやくその感染症法上の位置付けが「5類」へと移行することが示されました。

県民の皆様、事業者の皆様、市町村には、これまで感染防止拡大対策やワクチン接種など、ご協力をいただけてまいりましたことに改めて厚く御礼を申し上げます。また、医療従事者の皆さんには、自らの命の危険も顧みず、昼夜を問わずにご尽力いただけてきたことに深く感謝を申し上げたいと思います。

今後は、引き続き感染防止対策を続けるとともに、「5類」への円滑な移行を図り、本県経済の本格的な回復に向けて、県民の皆様、事業者の皆様、市町村と一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。特に、コロナ禍にあって長い間深刻な影響を受け続けてきた、大打撃を受け続けてきた観光業は裾野の広い産業でありますので、官民一体となって、力を入れて取り組む必要があると思います。観光やビジネスなどの交流人口が増えることで、飲食業や交通業にも好影響が及ぶことを期待したいと思います。

さて、本県を取り巻く社会経済環境は、原油価格・物価高騰や、多発する自然災害など、大きく変化してきております。加えて、例えコロナが収束したとしても、コロナ以前の社会と全く同じ状況に戻ることはないと思います。コロナ禍の間にデジタル化が相当進みました。今後は、デジタルとリアルを組み合わせたハイブリッド型の手法を用いて、様々な催しが行われていくことでありましょう。デジタルやグリーンなどの未来につながる変化をしっかりと捉え、国内外の活力を呼び込みながら、持続可能な山形県をつくっていくことが重要でございます。

こうしたポストコロナの県づくりにあたりましては、「令和5年度県政運営の基本的考え方」でお示ししましたとおり、一つ目に「未来の『やまがた』をつくる人材育成・確保を

推進」、二つ目に「持続可能な成長に向けた産業の生産性向上・高付加価値化」、三つ目が「県民が幸せを実感できる暮らしやすい『やまがた』へ」、そして四つ目が「安全・安心な暮らしや交流を支える『やまがた強靱化』」、これら4つを施策展開の主な方向性とし、複雑化・多様化する県民ニーズや県政を巡る困難課題に柔軟かつ積極果敢にチャレンジしながら、時代の転換の先を見据えた県づくりを力強く進めていきたいと考えております。

こうした考え方のもと、今年度、ゼロカーボンの流れを契機とした環境と成長が好循環する社会の実現に向けた取組みを進めていくため、環境企画課内に「カーボンニュートラル・GX戦略室」を新設いたしました。

また、子どもから高齢者まで誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指し、県全体のデジタルトランスフォーメーションを加速させていくため「DX推進課」を新設いたしました。

そしてまた、「こども家庭庁」の創設にあわせ、安心して子育てできる環境の整備や子どもが等しく健やかに成長し活躍できる環境づくりに向けた各種支援施策をこれまで以上に力強く推進していくため、しあわせ子育て応援部の課を再編するなど、新しい組織体制を整備したところであります。

こうした新しい体制のもと、「第4次山形県総合発展計画」の基本目標であります、「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形県」の実現を目指して、全力で取り組んでまいります。

ここで、今年度の、本県における明るい動きやトピックスに触れたいと思います。

まず、県が20年の歳月をかけて開発育成した期待の大玉新品種「やまがた紅王」が本格デビューいたします。「さくらんぼ県やまがた」の未来を発展させていくため、デビューイベントの開催や各種媒体でのプロモーションにも力を入れ「やまがた紅王」のブランド化を強力に進めてまいります。

「つや姫」のブランド化が成功したのは、県民の皆さんお一人お一人や事業者の皆さんも一緒になって、オールやまがたでPRしたのが功を奏したと考えております。「やまがた紅王」もぜひ県民の皆さんや事業者の皆さんのお力添えをお願いしたいと思っております。オールやまがたで発信してまいりましょう。

そして、10月には、新しい県立新庄病院が開院する予定であります。最上地域の基幹病院として、将来にわたり地域の皆様の信頼の下、安心・安全な医療を提供できるよう、開院に向けてしっかりと準備を進めてまいります。

さらには、今年度は「米沢トンネル（仮称）」の整備推進に向けて、トンネルの具体的なルートを検討を進めるために必要なボーリング調査などをJR東日本と共同で実施することとしております。このトンネルは、本県の未来を拓く希望のトンネルでありますので、県内外の関係者の皆様とともに一丸となって取り組み、一日も早いトンネル整備実現を目指してまいります。

最後に、県民の皆様には、災害に対する意識を高め、備えを万全にさせていただくようお願いをいたします。

近年、全国的に地震や豪雨などの自然災害が頻発化・激甚化しております。本県でも毎年のように自然災害や鳥インフルエンザ、豚熱などが発生し、国際社会も不穏な情勢が続いております。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われたものでありますが、近年は「忘れないうちにやってくる」ようになりました。もし、パンデミックや災害が襲いかかってきたとしても、短期間での回復・復興が可能な社会を作っていくことが求められていると思います。

県内全域において、ソフト・ハード両面で災害に強いレジリエントな社会を、県民の皆さん、事業者の皆さん、市町村とともに作っていく必要があります。

先人たちが様々な困難を乗り越えてきてくれたからこそ、現代の私達の生活があるわけですので、私たちは、未来の世代のためにどのような困難をも知恵と力を合わせて乗り越えて行かなければなりません。みんなの叡智と総力を結集し、積極果敢に取り組んでまいりましょう。

県民の皆様には、今年度もお元気で、山形県の良いところや誇りに思えることを積極的に共有しながら発信していただきたいと思っております。

私も全力で県民の皆様の幸せのため、県政発展のため、県政に邁進してまいります。令和5年度、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

#### ☆フリー質問

記者

山形新聞の鈴木です。よろしくお願いいたします。

私から1点、先ほど、コロナ禍でダメージを受けた観光振興に特に力を入れていかなければいけないというお話がありました。大都市ではインバウンドの回復が顕著なようですが、県として、このインバウンドの回復にはどのように取り組むお考えでしょうか。教えてください。

知事

はい。県内もですね、少しずつインバウンドが回復と言いますか、海外の方もいらっしやっているというふうに聞いているところではありますけれども、やはり、県外の空港をですね、活用されて本県に観光に来ていただいているのかなと思っております。今後はダイレクトに本県の空港2つありますので、そういったところも活用していただきながらですね、県内を巡っていただけるような、そういった取り組みをしっかりと進めていければというふうに思っております。

5月8日からは新型コロナが5類に移行するということでもありますので、しっかりそのポストコロナを見据えて、これまでも取り組んできてくれたとは思いますが、さらにその取組みを強化して、こちらからもですね、やはり海外にも出向くというようなことにも取り組みながら、県内への誘客、お客様に来ていただけるような、そういったことを

ですね、しっかりやっていたらというふうに思っております。

記者

はい、ありがとうございました。

記者

共同通信の阪口です。本年度もよろしく願いいたします。

今、発言の冒頭にありましたけれども、春の訪れがあまりにも早すぎるなという印象を、山形に数年いて今年なんかは特に感じているのですけれども、今年、山形の蔵王のほうなどは樹氷がちゃんとできなかったといったような話も聞きますし、そのあたり、もちろん春めいてきて嬉しいところではあるのですけれども、危機感みたいところ、山形の観光名所にも影響が出ているという点も含めてどのように思っているか伺えますでしょうか。

知事

そうですね、本当に厳しく長い冬からの春へということで、気持ち的には花がたくさん咲く季節を迎えるという、嬉しい、喜ばしい気持ちというのがあるのでありますけれども、一方でですね、今記者さんがおっしゃったように、地球温暖化の影響を受けているのかもしれませんが、蔵王の雪解けの早さと言いますか、樹氷がですね、早くも雨が降って解けてしまったとかですね、そういうことも聞いておりますので、観光資源、やはり大事な樹氷がこれからどうなっていくのかということが大変心配しているところであります。時間はかかりますけれども、樹氷復活に向けて県民会議も、県民運動をきちんとやりながらですね、官民一体となって樹氷復活に腰を据えて取り組んでいきたいというふうに思っております。

また、この季節が早くなったというのは、昼は暖くなるのですけれども、朝晩がかなり冷え込んでおまして、数回ですね、マイナスになっているのではないかと。山形市内はそうでもないのですが、東根とか大江町とかがマイナスになったというようなことも聞いておりますので、さくらんぼをはじめとする果樹が、花芽が膨らんできたところに霜が降りると本当に凍霜害がありますので、さくらんぼ県、フルーツ県として本当にこの時期をしっかり乗り越えるということが大事になってきます。特にやまがた紅王の本格デビューの年でありますので、大変心配をしております。なんとかいろんな手立てを講じながら、本当に生産者の皆さんとですね、県も市町村も一緒になってこの時期を凍霜害からなんとか乗り越ってもらいたいなという思いでいっぱいあります。

記者

毎日新聞の熊田です。よろしく申し上げます。

冒頭の知事のご発言、それからその前の職員への訓示と伺わせていただいたのですが、午後には新規職員の辞令交付もあると思うのですが、新たに年度が替わりまして県の職員になられる方、それから年度が替わりまして新たに山形県民になられる方に知事からどういう言葉を送られるか、こういうところを皆さんも一緒にご覧いただきたいと思います、そういう新規職員への訓示内容でも構いませんし、教えていただければと思います。

知事

はい。そうですね、午後から新規採用職員の皆さんへのご挨拶を予定しているところがあります。

この春に新たに山形県においでになった方とか、また、新規採用職員になった皆さんにはですね、平年よりも本当に早い春の訪れなのでありますけれども、山形県の春というのは本当にその早春の輝きともいえるような美しい自然の風景でありましたり、生物多様性と言うのでしょうか、野鳥の声を聞ける機会でありましたり、それから季節には関係ないかと思いますが、ラーメンやそばも大変おいしい、飲み物・食べ物おいしい、温泉もあるというような県でありますので、新しく山形県内にお越しになった方にはですね、ぜひまるごと山形県の良さを楽しんでいただければなというふうに思っております。

そしてその良さを体感して、しっかりと様々なお知り合いの方々へ、県内外、国内外へですね、発信していただければありがたいなというふうに思っているところです。

新規採用職員の皆さんには午後からご挨拶を予定してございますので、それをお聞きになっていただければというふうに思っております。

本当に一緒になって、この山形県をもっともっと良くしていきたいというふうに思っているところでございます。